續後拾遺和歌集下

石瀨文庫

続後拾遺和歌集巻第十一

恋歌一

題しらす　　花山院御製

ことゝもいはれぬまてにおもひさへ色やおもひにもえわたるらん

権中納言敦忠

相思ふんはいはとにおもひは見まくほしさにこそありけれ

よみ人しらす

石見の尾もつれとのさひ草今更なにかものをおもはん

洞院摂政家百首にしのふ恋　　前中納言定家

ふしなれし垣ねのまゝに小篠原しのひしはなもおもひはらなりけり

題不知　　坂上郎女

夏乃野のしけみにさける姫ゆりのしられぬ恋はくるしきものそ

よみ人しらす

まくすはふあたのゝ原下にのみ人をこふるはくるしかりけり

恋歌の中に　　八条院高倉

いはねまた人もしらしなみちのくのしのふの里にしのひそめてき

式部卿久明親王

しるやいかに高間の山の嶺乃雲月はよそにのみかゝるおもひを

平貞文家乃歌合に

師恒

久堅の雲ゐにちかく見しよりもこのころはなれしあとを

読人しらす

忠岑

かゝみ山そのかみならすやまもとのこゝろをけさは我や待らん

源重之女

人とはぬたかひとも待またれけるとこよの月のやさしくもなき

今出河院近衛

富士の嶺よもあらはれていつまてか我恋のけふりをみるへきうきみなれ

文永二年七月白河殿七百首よりよむ寄煙恋

前大納言為家

いつはりのたかねにみえしもえさかぬおもひのけふりなりけれ

恋哥の中に

昭慶門院一条

我恋ひはふしの高ねのけふりかはれ富士の煙よりまさらんとせ

前中納言資名

ますらおの我下もえの煙いつかはくもにまかへん

建長二年九月十三夜十首哥合よりよむ寄煙

思恋

前参議忠定

なみてたにわれておもひのたえぬ煙の下もえん

読人しらす

法印宗円

志かのうらにあまのもしほのけふりかな我身にあまる思ひなりけり

三れんかふうさ入石のみこうまたなひく玉りの長れ
中院入道右大臣中納言時家卿
しのぶらふ　大原大夫房浦
三るこめや岩うきいわうこ苔ゆ新ふ三恋ゆ
入道前太政大臣家ゆ人ゝ毛とさこりて
帝よりしのぶらふ家苔恋
ゆ山ゝ岩りと苔のいとこと新ふ人ふ
れかりしんを　清水長舞
野河法師

数ふゝぬ三宝入山ゝ岩こ苔いこ〇いここ行れて
知身恋恋ゝとふ、ゝとゝあ
大原宗泰
ゆふゝぬみゝ仏ゝ仏堂ゆ
寄源恋恋ゝとゝみ行ける
為道朝臣
あゝ星ハゝ八ゝ今源氏ゝ行神ゝ
新ゝ今　権中納言実忠
ゆゝこゝ神ゝ毛せゝ
中家

りさと神の涙とぞいむまにあはせるもむ中の水
百首うたよませけるより　後宇多院御製

この世にてうれしかりしさとりをば岩うき淵に身をしづむ

悪意のこころを　中務宮家親王

忘れてぞ我れからふかめてそあつまやなのさとりにはなれ

前元百首うたよませけるに心を　法皇宣旨

くらぶの下にあかさるるものをいかでやはなほとひとらん

人丸

あるがままにたちとまらぬ心さへ重みうるとは

いつなりぬるとは人よあまねくせけり　因融院御製

文保百首うたよませけるに　持明院内大臣

いつかはとたのみしかども今はなほ人もとはぬ

思ひあまりしてもいつかは逢ふべきとなげきぬるかな

百首うたよませけるに　入道前太政大臣

月ひとつよせてあはれ神の海の人のかをりは世々の秋

寄枕恋　津守國助

嵐わか枕かりとこそへさ波と袖よ志つゝまし思ふかれ

嘉元百首歌たてまつりし時恋

前大納言為世

せきかねし人のこゝろ志のば袖乃うへよ[illegible]なき世なか世ハ

関白太政大臣

限あれハ波と袖よ涙むすぼゝれかのおもひありけり

天暦乃みかどよたてまつらせ給ける

女御嚴子女王

秋乃野よ萩の下ねよなく虫も思ひそてハこゑよ出ぬ也

題しらず

平時村朝臣

ことすりねよハなくとも人めよ野のゝみなよあや

弘長三年内裏百首歌たてまつりける時寄杜恋

前大納言為氏

ちりじ思ふの杜よ下りみちおもひそてハこゑよいはとも

恋の命とてちかはせ給ける

後鳥羽院御製

人る背目のみのゝうへたれけて心の色を誰よみせまし

寄糸恋と云ことを 後一条入道前関白左大臣

思ふ事ハ白いとをとちゞめても糸乃色ふ出なん

世よつらけり

九條右大臣

人まことをひとへにあしの名を出ぬへくこゝろゆるす
後宇多院御時十首歌のうちなりけるに時雨を
あめのあやしそんをまぬまよりぬるとしをすとも
建保四年百首こゝろあてまつりけるに
常盤井殿へたゝの五首
紅葉あさの野にたゝくこゑはなを出そとやさはぬ神なふ
所をとりまはせはしけり
御製
いつのまふかくそのみえつらん思ふもちりもあるこそ
文保百首こゝろあてまつりけるに
前大納言雅孝
人まことをあらの海ふかくなる法のみちとこゝろせ
こゝろ中に
贈従二位為子
吉野川ちりて後のいろかなさくらはなをもあらし
大江政國女
こゝせはこゝろをなをすあとは神よなまはあらん
俊子内親王
思ふ人の心のあさをあせふわつらはしけるに
従二位親教

あさなりや月のかたぶくまでもなほ
いつ重ねつるそのかすみかな　　蓮智門院

たゝ京大夫藤原家の方合より

思ひしも今はあさぼらけ煙となりぬる哉　　法二位藤原

月　　丹後忠守朝臣

やつをの煙とみるもあはれなり
西海百ぢの海をもてりけり時　　源師光

心あてにいかやをるらん白露の
月　　伊勢

ちるとみるまでをしるる袖のあはれ　　伊勢

ちるとみるまでをしるる袖のあはれ　　たゝ忠の後乙泰

ちるとみるまでをしるる袖のあはれ　　藤原門院少将

色ふかき神のちかひをあらはすとて　　平泰時朝臣

家のあとをしるしとしるしるしるしるしるし　　後西園寺入道前太政大臣

いふせんのあはれあまる袖の露をさそふ志賀の
西園寺入道おほきおとゝ
今はやとのこまてゆかふらふあまりはなの雪のそ
よ人しらぬ
梅の花よそのみとのみ見しかはなをとゝのふ
宣耀殿女御の御さしぬきにさしけるを
つゝして結びつけてとうへして結きれて
夜床寒月新
七夕はなをこの花とそ見たりけるきの橘
むすめはなりしかとそ知よやをとけり
みとりてたゝへうりをふそ〳〵ひろうけり
伊勢大輔
なとそ人〳〵なれる雲はをうしはなをうへ〳〵
あしをみつゝをうれてなをとせり
なれやまつゝけ
紫式部
ゆくすゑかりあはぬ玉つさと雲のよのそ結ひそうけ
元良親王
新院御製
むらさきの花ちる月はなをうへのこうをうそやまんとやをう
中納言家持
なすゝ山あさ雨雲のあはぬ日をゝみまくはなをこそ思ふ

近江更衣より為まうせける

光孝天皇御製

あさぼらけ有明の月と見るまでに吉野の里に降れる白雪

中納言兼輔

白雲の立ちまがへる峰にまがふ花の中にぞ鶯の鳴く

中納言家持卿の歌合

春の来ぬ人にしらせぬ鶯の花の中にぞ年を経ぬる

寛治百首の時書本意

前大納言為房

伊勢の海あまの釣舟とまをあらみ波にゆられて明かしつるかな

堀川院御製

世の中はつねにもがもなぎさこぎ海人の釣舟はるかに見ゆ

二条院親王宮御

ながめやる人の心の秋の月雲にまがへる峰の白雪

順徳院御製

見わたせば山もと霞む水無瀬川夕べは秋と何思ひけん

みさごゐる沖の洲崎の白波の立ちもかへらぬ恋もするかな

弘長元年百首の時不逢恋

常盤井入道前太政大臣

見てもなほいとゞ思ひの海よりもふかき波へいかなる浦に寄る

題しらず　　後鳥羽院御製

我恋はいはでさゝがの杉の海よいかなる海士の見るめなるらん

光明峯寺入道摂政家恋十首歌合に寄

絹恋　　洞院摂政左大臣

年ふれとあふてふ事のなからましかはうき人をしのふ日そなき

宝治百首歌たてまつりける時寄瀬恋

花山院内大臣

岩そゝく瀬々乃白糸我なからひきてもわかれて恋わたるらん

題しらず

紀俊文

数ならぬ身をうき世乃川にしつみつゝ思ひそめても恋わたるかな

式乾門院御匣

思ひ川あふせもしらてなかれゆく水の泡の消かへりてもいかにせん

栄子内親王

よしさらは浅き瀬にこそ思川さ瀬よ袖のぬれもこそすれ

従三位氏久

名取川あふせにとはむなきなりよしなき名のみたちてぬる袖

俊成卿女

たえぬ川いかりとゆくすゑもなみまつてもぬるゝ袖哉

実方朝臣と云ふ人 伊勢院御製

いかゝせん拾ひ侍りぬ山さくら　門のくちなはの花

五首書合　望月后宮大夫俊成女

ちりはてゝ　さかぬ木もみくさ神よりの　所はなれ

八條入道前太政大臣右兵衛督公行の家に

家に歌合し侍りける時　藤原

我恋は　たゝ人不知

ひとやあるすなれて　神あるすらん

續後拾遺和歌集卷第十二

恋歌二

忍恋

あふ事の年をへぬるいつまでか我恋さらん命ある

人丸

いきて世にあらんかぎりは忍ぶれど

安部の忠明朝臣

いつまでかうらみ侍らんと思ふ

恋のこゝろを

侍二位家隆

ひとりこゝろすそをぬらしてやはてをしらん

[illegible]

菅原長風

[illegible]

貫之

[illegible]

後二条院御製

文保百首の内恋

前大納言為世

[illegible]

清眼法師

[illegible]

中務卿

惟宗光吉

[illegible]

菅原道真朝臣

[illegible]

正治百首の内恋

仁和寺二品法親王守覚

為道朝臣

関白左大臣家歌合

法印長厳

宣旨典侍

六条左大臣の中納言の時分合し侍

けふ

心ゝ

うらもとなりけり

右京兆

長久二年五月廿八日の歌合り

前深草

和泉式部

暮ぬとてやとはれは露おける枕もうきていかに寝ね

藤原為継朝臣

まつしもおもひみえしいふにはそさひしき暮の鐘やなる

伏見院御製

打ひとり志て思ひしらぬ我袖の露かゝれは人にせまる暮の涙か

百首歌たてまつりし時

入道前太政大臣

いつまてかまつ夕暮はつれなくて契らぬ暮に人の見え

契しらす

前備中守

歌さへも独ねのよそにみる暮のさひしさを夜の枕はまたいかにせむ

文保百首歌たてまつりける時

津守国冬

歌さへも秋の夜ひとりに暮ぬるやとのこゝろを

宿暮なりとふと

大江忠成朝臣女

夕暮の通路中〳〵にさむき後ものこる人は

賀茂雅久

西郷の秋の小田まては暮は松の外の夕暮そ

ものりにつゝり悲

藤原能永朝臣

昔より恋にあらぬ身そ暮ぬる人そたつねこしもの

いまはとてまちつるもうはいはいさこせし待侍り

人のたとへに

小路小町

今はとてもうらみぬるとはいまはかぎりとなりぬるとも

天暦の御時に合歓 源順

あふことをまちとしふるかひもなくたのめてやまんことのはかな

弘安百首に寄恋 前参議雅有

あるにくるなまてはこるせよ雅有まちふるかねはいとてまつ世の時不逢恋

弘長百首に寄月 為家

雅有よりふるとしをまつとはあてにまてしてまつ世の時不逢恋

平貞俊

玉のをはあらはれぬるとしをまつとはあてにまてしてまつ世の時不逢恋

法印定為

あまをとめをとこ命乃月よ我ふるさとにいかゝ月日

文永八年七月日河原にて人々恋をさそひ

て寄月をよめる

後鳥羽院御製

源のこうるや雲やは梅ひさしあり月日をさそひて

拾遺雅有十二首してさそひし時寄

開恋

右為家卿為定

いつこえて人は見ぬ世の関はこの山ぢをば
ある人々
仏見院御製
おもひやるなほ通ふ雲路にて我身ぞ行かんそらもなし
百首の内
権中納言公雄
ふるさとの人とみるのさくらゆゑ
新勅撰
春にのこりけりしるしあらじとおもふ
露百首の内
皇太后宮大夫俊成
恨てもなほうらはせんあるそのこころみるあるまれい

新千載
心をいたすあまをたのみけり
法印禅澄
のりえぬるやをなほのつるそ縄ゐてき中に立くんぬ
源邦長朝臣
しかふかもあらしあるさせやうの河水こそ
名所百首の内
ながれてさりけり
僧正行忠
いたづらに年はすぎぬ和門やうをせんと神よりて
恋の内中に
西行法師

ゐなの湊の門の水上ハ人をとこそまたぬなかりけれ

百首歌よみ侍る時　入道前太政大臣

しらせはやねぬなかの水上ハをりふしあかてたえぬ涙か

寛治百首歌よみてまつりけるに寄漆恋

従二位行家

年月ハ海よつもりて我袖のみるめにや恋ハ海となるらん

恋の歌とてよませ給ける

院御製

独ねの床さへしく袖乃上にやとり涙の月をもとむ哉

百首歌よみ侍る時

前関白左大臣

こぬ月よふけ行逢ひもと白露にぬれてそさひし暁の袖

題しらす

後鳥羽院御製

逢ことハかたいとひとつしきかねてはるはるにまちし年を今はた

たのめ馬場ニ人をまちひてあふむつかしに

まよりて待まつ時ハよみ侍ける恋の心

を

基俊

逢ことのむすひかねつる玉の緒のゆるる細けにつなけかな

千五百番歌合に　醍醐入道前太政大臣

あふてみぬ君かいのりのまつ契ハことのはに結ひとりけん

文保百首歌たてまつりける時

前左大臣

つまりなさんとすみをうやみ草ものやふかしきやと

芥川利義院前豊後国司

ふるさとのこゝろ昔はまことをいとて物うらめしかるらん

恋のこゝろを

いかゝせん山さくらをつまるゝに恋をもまさるこゝろ

恋並おなじ題

前大僧正慈鎮

我恋は雖波かりけの蔦はねのみをれてのこるこゝろ

九條右大臣よつゝうけ

よゝ人しらぬ

ふるさとのあれはてのこゝろいとせまるこゝろ

九條右大臣

返し

世のうさにおもふ人こそ我をたゝ

恋法百首こゝろ

後鳥羽院御製

恋俗て月とうらぬ年とゝ

恋

実方朝臣

ふるさとに忍ぶ草のうらぶれ

前大納言経長卿

ふるさとに忍ぶ草のうらぶれ

法性寺入道前関白家百合

待賢門院堀河

つま遠しとハなくとみ山木のかけをもかけの花つゝむ
恋なりとて
中務卿宗尊親王
浪のよる岩ほも松のみとりもつゝむさゝ恋の種となれ
前参議雅有
しほみちてハ浪こす磯の岩ね松ねまてぬるゝ袖のつま　なさ
藤原清輔朝臣
岩ねふミかさなる山のおくまても道ある物ハ恋ちなりけり
前大納言為家
しゐ入といふやまもあるをはらひさるさきの山ふけし
文保百首たてまつりける時

前大納言定房
年月ハそのよそに松乃門にてなへさしこもりける
中ねよ待まつ時家よりさ合しまけつゝ
中院入道右大臣
逢こんと契りしかけの色なから今ハ命かなへまつされ
鳥羽殿にて人ゝ前よりまつ待かねつゝ恋のゝそ
権中納言俊忠
恋ひて日数つもれハ浅からぬをもはてきものとやみえ
思しらす
よみ人しらす
夏よりハ恋しきとのなくはあらぬまてねをとふはまや

後鳥羽院より二首をまいらせけるに久恋

後深草院少将内侍

三重にやはのこゝろいろ深のまもなくもとゝ恋ぶるべき

恋の中に

藤原為嗣卿

つまもなくこゝろ乱れそふ山ぢのたびのそらにまよひぬるかな

祈不逢恋

贈従二位為子

数ならぬ身をしれば神をうらなくなるやはまもるきゝのまつ殿

平親清女妹

こひしさをしるべにたどるこゝろの道のあはれをきゝのまつ殿

那有親王家五十首内不逢恋

祝部行親

毎のまふあふ事をしるべにて人の医月日なれば

平宗宣朝臣

はるばるとたゝるかすみのうらにこゝろ乱るゝ

伯秀房

こゝのへふるてもたゝるたのまるいとふとたゝるうれい

権律師浄弁

なぐさむるものはなくて徒とたゝむいなふ歎きん

大納言親房

[illegible]

文保百首うたあてまつりけるとき

従二位宣子

[illegible]

十首うためしけるつゐでに河恋とよみ侍

按察大納言院御歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

従二位行家

[illegible]

[illegible]

贈従二位為子

[illegible]

二月廿六日釈尊涅槃

[illegible]

後撰拾遺和歌集巻第十三

恋部三

世の恋もせらるれいなけるあるはてをいふ

平兼盛

しるしあるとて

ちはやぶるかみのいがきしるしなるかくのみしるしの

葉平朝臣

置とふ雨はよそにのみ聞くものを袖のみぬれぬ

世ちかくなれば人のいとはれぬ世をいとはれぬ

人よりはこひてしてつらけ

よみ人しらず

見よとは、毎のむれ侍をこそふるに元てあるそうの

返し

在原業平朝臣

我をこそ思ふ人のつれなくはたのむ

ものとはいはじ

人丸

思ひきて我まつ君を待つとせむ

よみ人しらず

久しきの元なりこひしく我身ちとも行末とも

基俊

ふりこかしてふるいふ新

順徳院御製

あすとゝ又おなじ夕べ宮やうきんふんうんの法
文保百ゝ年忌に　右兵衛督為定
なとゝりて形ゝ世ゝ人ゝ法ゝ師ゝ
高野山中に　平能員
今ゝはゝ昔ゝ為ゝ人ゝ法ゝ師ゝ　書写院法師
法ゝ師ゝのゝ小袖ゝ形ゝ月ゝ新ゝ三ゝ日ゝ
光明寺入道前関白太政大臣　法名寺殿
三十ゝ三ゝ年ゝ　前大納言資季

世ゝ形ゝ法ゝ師ゝ
月ゝ　大江形重
法ゝ師ゝ
弘安百ゝ年ゝ　武蔵門院御遺
法ゝ師ゝ
月ゝ　平民村
毎ゝ月ゝ
形ゝ　前中納言公脩
形ゝ法ゝ師ゝ

はるをまちこしふるさとのひとをこそ
百首の歌時　　よみ人しらず
しるべとたのむさくらやあるとさらにいとかをそ
来不留意ときいふこころを　　関白左大臣
なのつくるまちなれもたのまじ秋の海のうやさ
中務宮家の親王歌合り　　前大納言為氏
ひとをこそ待つらめなれもたてるまつのあるとて
おなじ歌合り　　おなじ親王歌合り
なほ中の川のすがたをそいとゝ袖にぬるゝ
なるゝ人をこそ待つ十首の歌合り　　権中納言公雄
いとゝとはりひけるこゝろは秋の逢意
つゝふあひく　　為家卿
ちゝやはゝ神よ祈ゝ　　藤原清正
返し
よゝ人不知

皆人の立てくさせいあつひ茶いつまとそれの色ちうえん

光ちかす　　安倍仲丸

秋乃野のたもと露とうちはらてさあつうしきうあつ

家ふさあるくさ秋乃ひつれむつ　　常盤井入道太政大臣

建保内裏ニ合ハ寄草恋と

難波ひつ月とつてもひそるれ　　前中納言定家

恋の字ハ中に　　為道卿女

春そもとうしふひそなふ　　ハ

前大納言為家

文保百首ニ初めけつくり

ふとみ春をうつもいふて　　拾遺和歌集

恋の字ハ　　院御製

とつさ馬ちうしさ　　為道卿女

いそくとてあつさまてあ　　ハ

人のなのことも思ひさくりて立かへる道

暁別恋を　　権中納言公宗

よそにきくゆふつけ鳥はうきとはましたゝ人のためとそなく

暁別恋を　　前僧正道性

明ぬとて鳥はねさめぬ我袖もかつつきぬ別の思ひかな

平維貞

鳥の音をいつはりのみにきく月まそなく衣かな

嘉元百首哥たてまつりける時暁別恋

民部卿為藤

鳥の音よおとろかすなよ待てこそまつ思ひもあへぬ別路の道

兵部卿元良親王家の哥合に

よみ人しらす

涙川さけと海にあはつきぬ別路はなにそこそ立すら

恋歌の中に　　鷹司院按察

暁はさらぬとても物思ふに袖のふる涙なるらん

平泰時

つれなさを恨みし程は別ぬる別も思ひやらまもり

前右大臣

あかなくのふまきを我とゝめて帰るさは思ひ人あかるの月を見る道

達智門院

くらき也やみにはまさる白露のおきてわかるゝ袖よりもなほ
本院の侍従に絶てのちいひつかはしける
忠義公
露ときえておもひねにわかるれは我袖まてかわくまもなき
返し
本院侍従
ものおもふとさくらもしほしく別は夜の袖そかはけ
百首歌めされしついてに
御製
月見るとも影やとめぬる人の袖に別のあかつきの空
弘安百首歌めしけるついてに
亀山院御製
めくりあはん其暁をいつとなく我につらさは有明の月
題しらす
藤原雅朝卿
いかにせん是をかきりの別にて又めくりあはん命ならすは
中宮
又いつとおもひもなくて今はとておきさ別つる名残のとこは
洞院摂政家百首歌中に後朝恋
藻壁門院但馬
おきわかれ思ひたえなん今朝の空たよりもなくて出にけるかな
法眼行済
かゝりしをと

とて四ゝぬしと数人かれ面部新八郎ふそひ[illegible]ゝ行とて[illegible]

雲霧と云ことを　有永弾有朝臣

四海の峯に秋ふかゝ横雲の立別てそ独ゆくらん

藤原元実

今そ思ふなきてゝ海をゝ袖の涙のゝ[illegible]けるとゝ

御厨子所の上ひけゝまいりさりもしたし

角まらせけり

天暦御製

ぬさとりゝこまとゝ[illegible]ゝ袖のゝ[illegible]

忘れの中に

前参議雅有

逢ことのゝ[illegible]ゝ人のゝ[illegible]

あせうゝ四とゝ[illegible]ゝ[illegible]

二月法親王慈道　[illegible]

[illegible]

素性法師

いゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

人丸

[illegible]

山辺赤人

[illegible]

源宗于朝臣

稀恋

みなのつゝ井にかへりてとしへぬる我ぞ
恋しき百そゝ人なりける河内

後深草院弁内侍

みちのくにあさかの山のまちにもあらぬ
人にあふかな

左衛門院小宰相

住吉にふんつかとも持ちもこの浦にはとり
せじ

建保二年内大臣家百そゝ人歌合

持ちもこの浦にはとり

家より五十そゝ人

源有長朝臣

住吉に歌たてまつりしとき

逢坂恋

源邦長朝臣

なにはえにあさりする蘆のかりねにも
天暦御時の屏風

源信明朝臣

秋つゝ川乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
文保百そゝ人

成そゝ

芬陀利花院前関白内大臣

心のゝおさまる道よ思ひやまぬふかき人につたれ
恋しらず　　平師親

思ふ人を今はなさふにまた浮名立別しやこのたまえん
うつし給けつたとしかるべきまとて見え
まくらそとえぬいのちともせんとはいしをとまり
けるよりみ　　馬内侍

恋しさも思ふ年にかくふら志あまりつき命をさとめ
恋しらず　　祝部成久

忘らるよそ人につきに悔ことも有無とものむくらんを

廬義云家にて宗にかよみ人不知

逢みしをやそうくやと思ひしま暮なをとなるあかつき
暮らしにもふかさつめ定ことをもうにかして暮きしかん

逢後朝恋と云ことを　権中納言公宗母

寄夢恋と　光俊朝臣

恨くも又いふ稀しあの暮を待しいほとなるさみねはかなくん

欲絶恋といふ事を　津守国道

我中にくみし岩橋よるすまし明くちらくしまなかはさん

西園寺前太政大臣家いまもとかんこりゆしめ給ひける比
をくりける　権中納言敦忠

三道とおぼしき跡の荒れ落ちのこりたるを

見しらず　　中務の宮兼親王

荒れ落ちのこりの松もまばらにうゑ置きしかたぞ

なほ小舟をしるべにもとめてもいまはかなしき

前大納言實教

うらぶれの荒れはてぬなきを世にけてゐる小野をきん

坂二条院御歌

いつ小女つくる忘れもみめぐらふ人のようつ歌りを

伏見院御歌

あるふのこうつゝやをたつさまのをとゝ人をかんをり名

弘安百首の内きりけり河

大納言澄雅

歌ゝ荒れ荒れ人もあさりにうつりやとくいかと歌りん

光明峯寺入道前摂政家百首の内

雪中菊

坂無羽院下野

いつゝやあるに歌や法ひなきを菊のうつりやを

物の色しけり世のことはまふ人ぬとをきて

はるゝ雪　　長親王

今ぶやうしろひよけり不業ゆへその村雲のたちん

[illegible]

桐擬

[illegible]

徳舎右大臣

[illegible]

續後拾遺和歌集巻第十四

憲房卿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

女房人二條殿御方
うりゐ　おりゐ　ゆかり　ゆかり　とかきて　形ばかりはいまて　御
と　はつ　世　を　ゆ　て　延壽御前
演　者　ゆ　来　と　ま　ゆ　ま　ま　ま

[illegible]

文保百首の歌合の時

後西園寺入道太政大臣

[illegible]

平貞宗

[illegible]

百首の中に

式部卿親王

[illegible]

今出河院左兵

[illegible]

五百番の歌合に　二條院讃岐

[illegible]

[illegible]

慈好法師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

意の奇とて　民部卿資宣女

洞のうち人乃ことと品ふまも行方人神のそそそはき　好忠

我せこうわをふかしかなり秋をなる身秋そふ　寛治百首之内　後深草院御内侍

月ふかし嵐風ふく意とあん我と姿せ時うを秋　意の方中に　猶余右大臣

ふくさ秋をへ乃ま葛の色より身と秋風のふ賀の　平時英

さえねて家乃命中くにあるそへの物をたらて　前大納言実教

契をく深草の雲の消を世く色ふうるとみよ　文保百首之内

色ふうるこのとに記あえて通色庭て雲ふ物　二条法親王覚助

宮相木意を　前参議為実

うらけうへのんれとうを色は海のをいたりまに　中務卿宗尊親王

意の心を

数乃雲物よ行ふうさ加色は姿ふうる色

[illegible]せられ候事にて候へ共、[illegible]
よみ人不知
[illegible]
[illegible]
後京極摂政前太政大臣
[illegible]
[illegible]
[illegible]

遍不舍意と

永福門院

くりかへすもなほかぎりなきこゝろのうちとこひそめんと

万秋門院

百千万歳意

難しるしるべきかたもとゝまりてはまことにあはれまさるべし

前大納言通茂

絶後の意と云ことを

何故とか問ひ訪んまつとしたりしいてゝ

絶後意とのたまはせけり

従二条院御製

命のうちにあはせまゐらせてこゝろ長くそうしの

邦省親王

ぶらんと

源親房

惜守國助

惜しみて惜しみてもなほ惜しみてもあはれ

惜しみて惜しみてもなほ惜しみてもあはれ

百千万年

二条法親王覚助

惜しみて惜しみてもなほ惜しみてもあはれ

惜しみて惜しみてもなほ惜しみてもあはれ

同院御改家百千万年

常盤井入道前太政大臣

そのまゝいやしくやはのこゝろと人のゝたまへるもの
　　源重泰
宮の院にて
面影のうつりうつりますかゞみ
　　権大納言基嗣
月をこそうぬはいはしてうつしみれ面影のうつりかはり
　　宣旨典侍
ますかゞみ面影にのこるなみだ
むかしをけふかこと年乳母のうたつふ
　　すとて
　　ゆきみ人ふる
ゝゝふとゝひとかたまますかゞみ
　　ゝゝの新ゝ
弘長二年閏霜月百首ゝ
　　前大納言為氏
ますかゞみ
面影ますかゞみ新ゝ形めかゝゝかゝゝゝゝ
百ゝゝ年ゝ　　入道前太政大臣
あのまふなしゝふやゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
　　関白左大臣
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
　　光俊卿
ゝゝ
忘らるゝ我ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
　　登蓮法師

見ぬこゝろをさそふ人のしやうとゝなるべし

女御殿子女王

三重寺にまいりけるに行のえだに松をうゑるを思ひやるに

今はゝやうつりぬるかの春こゝにうゑし人はみえぬ中に

文保百首奇和歌

侍従澄覚

見すてゝよゝのつゝみをうゝやうゝ濁る海の波ぬるゝに

恋の中に

花原の朝

恨ゝも身と捨ぬるのいつまでとうゝ波よ袖のすゑ

人をうゝ恨ゝ捨ぬと今宵ばかりさゝ人をうゝにあるゝそゝ

弘長百首

花原宗秀

恨ゝもぬるゝ河ぬるゝ恨恋

前大納言為家

絶ぬるゝ人を恨ゝるゝ身にはゝうゝ洞ゝ

恋不知

源清兼朝臣

恨ゝ恋ゝ袖ゝ絶ぬるゝ袖ゝ

たゝ上

うゝむゝゝのいりぬるゝと思ゝ世ゝ髪ゝと云

十首ゝ

河恨恋

右若清書為之

元亨三癸亥八月大学寮の庭より彩雲たなびきて
人々見るとさわりて言ひけるまゝ時雨を
民部卿為藤

為藤卿つゝみもあへずいとゞしくなりゆくを
友尋義孝命を受けてよみ侍りける
うらめしき人しら波
月をうつしてゆくらん世をうらめしく思ひ侍りけ
寛平御后宮の宮合のうた

左京元方

夜こゝろとうすく交りをしたるをとゝのつとめ
忘れぬ中に
小野清原

うらんとゝしり侍りけるを
ふかくもとゝ
千五百番の歌合に
望月屋敷
夏衣うすくやゝのゝ
なれよりあるゝ
女房人代

小野宮中ふ
前大納言良教

今はとて

光明寺殿入道お拵改家の二十三ヶ年中
山階入たた大臣
よ
恨て思ふ事を歌にそ詠ける思ふ山ぬしを尋ぬ
宮山ぬし　蓮生法師
ものとは三宝の山ぬしをうゑ木とみても恨つるかな
文保百首ヶ年
うゑ木とは三宝の山ぬしをうゑ木とは花園を
津守國冬
花園ら年
数ならぬ身はおく山の中にあれ
花九条前内大臣
恨ひとつ
恨て思ひ入る山ぬ嵐
恨忘
前中納言有忠
寒治百首ヶ年
山ぬ嵐の物さびしく吹ける夕ぬ
寄風忘
嵐
嵐風
寄風忘
嵐風の物さびしく吹ける夕ぬ

[illegible]

忘れんと

中務の宮の親王

[illegible]

文永五年九月十三夜白河殿に合る恨不

尽恋

前参議澄康

いふせはあまの藻むすぶ浦波

[illegible]

おなじ殿大臣

[illegible]

光明峯寺入道前太政大臣家に十首合り

寄海恋

後堀河院民部卿典侍

忘れはあまの[illegible]

洞院摂政家百首に恋

従二位家隆

[illegible]

[illegible]

續後拾遺和歌集卷第十五

雜歌上

三條右大臣家の屏風より

貫之

徒に老ぬるものと思ふ身は
うへもなき物思ふ春の
とかな

色こそは世の常なれど
花山院御製

花なりし
春の
春の
春の

海とこの所のはまとなりけるとてあり

業平朝臣

こゝの海よりつゝさゝふきんの物のさゝに物をそなへてなん

はのまあるやとゝふとてよめる

前參議雅孝

和田の原なさゝこゝ言にゝるもしまの雲そ浪の限り

弘安百首の年号時　民部卿資宣

ゝゝ浦の浪の花の岩根の松の花咲れ

海亀松と云ことを　入道二品親王覚性

風ゝゝゝゝゝゝ松ゝ浦の花咲ゝ

平奇時

波ゝゝゝゝゝゝ

五百番の合よ　大納言通具

風ゝゝゝゝゝゝ

詠二位民久

不知

ゝゝゝゝゝゝ

前大納言實教

ゝゝゝゝゝゝ

文保百首の年号時　大納言雅孝

島のはなゝゝゝゝゝ

元日節會始まりて立楽の奏音聲
雙調の春庭楽奏し終りて御製
けり
時をまつ春の雪ふる山ぢかな　前大納言為家
雪ふる中に
小倉山雪ふる岩ぬけ月をみる宮ぬ
いろこの雪ふる月をみる　お大納言為氏
宮治開白前太政大臣おはして後の供奉あり後の日宮ふり給けり
花山院よりわたりたまひしかの御所
宮まをしてくのまうちんとあり世とのり
けりはるのよ
三笠山宮やつむらんとふまにしひけるに
聖へよりそしらたるろ世宮乃ふるふつむ
ろと為よりまろそて　中務卿親王
年をへくあるをつむと世祝よりから宮をふりにる
雪ふる中に
ふるとしをまつ月ひさしくあるを世雪やつむ
梅花とよりまをせあまりけり

梅花はなをあらそひて春の人の名をとめるかな

　　　

ありて黄なる[illegible]ときこえけり時奏

二条法親王道

しらけり

雲ゐ[illegible]梅の山の月新よりなき世まてしの月を照さ

前大納言定房卿十五夜

しらけ[illegible]野月　権律師淨弁

いつくの梅ゆとこえて[illegible]月新を[illegible]

彩しらす　津守棟國

[illegible]なる光の波[illegible]の神月

名所[illegible]に　津守國助

[illegible]の星

月[illegible]

久方月の[illegible]梅の[illegible]

月前苔と云[illegible]　信實卿

[illegible]月やう[illegible]の苔[illegible]梅[illegible]

彩しらす　土御門院御製

岩[illegible]の[illegible]山の[illegible]梅[illegible]

[illegible]人不知

[illegible]梅[illegible]

大江家秀

[illegible]梅[illegible]

わくらはにとまりてとしの行きかへるらむ
ろくてのちかのしをれはいとうらめしかりし
山ふかくりとりの音をきくとてつくりけり

山田法師

吉野山りんりのいりあひの入風の音をきくに

基俊

ながめやるかたもなしかすみのたちこめてくれゆくはるの
夕暮

後西園寺入道太政大臣

四月ちかく山ぢかくて月の出るを

忠見

題不知

神無月のころ海の邊にて波の音に落涙せしなり者
加元百首にてなりけり時雨

權中納言公雄

神なづき光の花の色ぞふかくなりぬる
紅葉

伏見院御製

神なづきしぐれ降ぬれば
夜ぶかく月のいでぬれば
ながめ
神なづきしぐれ降ぬれば
夜ぶかく月のいでぬれば
ながめ

安法法師

今はとて世をのがれぬとおもひそめ

建保五年閏六月廿日

皇太后宮大夫俊成女

信明朝臣の家にて河風

式子内親王

ながらへば又このごろの恋しさ

忍ぶるものと人しるらなん

捕仁親王

ながらへて思ひ出でにもなるべき

今宵の月の面影ぞ

信実朝臣

ながめ入る袖の涙の玉の緒

よ

建仁元年正月廿日鳥羽殿にて

法皇百首歌奉りけるに

恋

思ひ出でぬ人の面影ばかりを

ながめ入る袖の涙の玉の緒

前大僧正慈円

恋

いかにせん人の心の変らぬ

ものとは知りながらつれなさ

藤原基俊

恋

ながらへて思ひ出でにもなるべき

今宵の月の面影ぞ

法性寺入道前太政大臣

恋

ながめ入る袖の涙の玉の緒

よ

[illegible]

前右兵衛督為教

[illegible]

弘安百首[illegible]

常盤井入道太政大臣

おもひそめしもとゝ[illegible]

[illegible]

なりあせまして

續後拾遺和歌集卷第十六

雜の中

[illegible]

太御門院御製

[illegible]

前中納言定家

なみあつまるしらの松ゝ[illegible]

殷富門院大輔

[illegible]

長恨[illegible]

道命法師

[illegible]

清水観音清水もるよこしまの月をみるとて

[illegible]

法成寺入道前摂政太政大臣

たりひさやしのあるさに光をそえて独秋の月をみる

弘安百首の内

武門院御歌

煙をへて光をかくす月よりの思ふ

[illegible]

平宣時朝臣

いまへいたりもちかす嘆乃はえ光のつくるかな

菅原孝標女

竹の葉にはらはらとなるとも秋のかぜ

文集草堂深澗白雲間とふるとを

亡御門院御歌

若ふかき苔のしたりに雲乃戸をとの内方をそ

幽径苔と

伏見院御歌

いるかてにいへん山ふかき庭乃苔ありもしら

大輩へいるとてよもの内

大僧正行尊

山ふかて我をのえをてんそ世中いとりそめ

[illegible]

源長俊朝臣

世中はあらしのうちのさとは山里にはとりの音もまれなり

宰主法師

山里はとりやはとをとめぬとはいとはしん

武子内親王

百とせの中に

はひのさかりをあらはして梅の花ぞ

弘長百首歌たてまつりけるに山家

前大納言為氏

たとつて覚めのたりふと月とはねこの世

寛治百首歌たてまつりけるに山家水

大納言為家

小倉山のいりはの松をとはせてあふの風ぞ

文保百首歌たてまつりけるに

權中納言公雄

うしとを月をいつまて小倉山老の命はそらに無

山家入道

前大僧正慈信

いとひいるにもれぬのをみふもとんりは都なりけり

友原重綱

うきとはれをやえはいてはせんの人世のうれとこそ山家

惟宗忠宗

山里に世をのがれてもいつくんとうとんはは

前大僧正道玄日吉社にて
はつ一首の中に
うらやまみねの松山数ならぬ
寄沿百首の内の時松山
源三位成実

いつ見むとひとりの月にて杉木の松よりのぬ
述懐のこと
高階宗成卿

あるまじき松にうらぶれ
前大納言為氏

ひとりのおやのいとあはれ

ふるさとに二のみちとふてせよつゝもたらはけ
前大納言為世
寄中に
民部卿為藤

月ひとりとゝまるそらきりぬ
百首の内時
お大納言経継

りは第きあつめすい給をて老のんとはあしえ
光厳
平貞直

ひとりさわのうゝ松りかはるさをゝ
源宣氏

[illegible]

[illegible]

[illegible]

わすれに世ことをあら老のふしを出りたそうこれ
を見しらす　法印澄阿
月かくしてこりまとあらを御覧ぬ代の詠みをの
思ひ出えぬなれの末とこしらて移のこをに
僧都廻教戒牒とあつへて伯父とへつ
らすとて　前大僧正明雲
家風ふさ西園とは行ふ西まふ紅もつき
ひるふ伯父ふ五言あそまつ人のりもち
あれりのうつあすとそこひ伯父に梅の
枝よ付てつうすとて　友原高光
ちの世よなりとそゆをい梅を首ふふうつ公を
外記庭結改庭司古言ふうらつ年
ふのこまつとまつりとの次よんくあ
中原師光朝臣
いそ乃ふふ那の文ふらみ遍よ行のうれ
天平勝寶四年聖武天皇大長家よみ
ゆさ行ふ時
井上内大臣
むらふいやちさ宿を大ふまきんと三ふ五三遍と
ふ乃れのことを三首ふつまわり次よ朝

[illegible]

御製

[illegible]

源宗于朝臣

[illegible]

出羽弁

[illegible]

上東門院日ごろおもはせたまふらんとて

[illegible]

[illegible]

西院皇后宮

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

光俊朝臣

[illegible]

[illegible]

前僧正公朝

[illegible]

[illegible]

平定忠

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

おもかげとなのこりてみるあまのうら
　　友原興風
白浪とおりかけてのみ見しかども
　　寄物述懷
いふかひなきこゝろあまぬあまとあらはし
　　後天門院
しれこゝろとうみたるあまの身なれば
　　依日院御製
小舟こぎ出てまとをしたりさりなまを神のまもり
　　前備中道性
　　永福門院内侍

あさゝせよ浅かさしらぬ河ふかをゆめ世と海ふか
　　述懷百首哥よみ給けるに河
りこゝろ川をしたせるゝいふかひなし
　　前元百首哥たてまつりける時おなじこゝろを
　　前大僧正
　　望夫石　後成
　　前大僧正
　　友原貞忠
　　性助法親王家五十首哥

後西園寺入道おとゝ殿
文保百首うたよみてさつかはしける時
前参議為実
ゆきとのみ見るにつけてもふるさとの花の雪にぞ春
入道前左大臣
ちりぬれば春とも思ひしらぬかな雪のふる川
関白左大臣
家の風ゆかしきことを思ふにいかなる春の心なるらん
前中納言定家卿よめせて為忠給と
民部卿為藤
ゆきとのみ見るにつけてもふるさとの花の雪にぞ春
前宰相実治
ふるさとの雪のあけぼのいとはるかなりとあるに置霜
返し
民部卿為藤
ゆきとのみ見るにつけてもふるさとの花の雪にぞ春
前宰相実治
ふるさとの雪のあけぼのいとはるかなりとあるに置霜
さりけるハ
良峯宗貞
あるかの形ありしかとそとやとをん
ぬしよあるかの日ハ乃りとをぬと

送りて行くに

あさゝ原ゝ[illegible]河ゝ[illegible]せゝ[illegible]神[illegible]れ

ゝへ乃ゝ[illegible]ぬと高安王よをゝゝて

清原元輔

大納言猿人

わゝ[illegible]ぬゝへよゝ[illegible]せゝあひゝす雑波おゝ[illegible]

左京職御下[illegible]河内祭の舞人ゝて行ゝに

相乃ゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

けゝ

ゝみ人ゝゝらす

いゝゝへゝ行ゝて遠ゝ[illegible]ゝの山あひゝ乃ゝ[illegible]ゝゝ日ゝ[illegible]

前中納言定家卿出家ゝゝ五言ゝゝゝ

西園寺入道前太政大臣

ゝゝゝゝゝ昔ゝ人ゝの[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

返し

ゝゝゝゝゝ

たゝ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

續後拾遺和歌集巻第十七

雜歌下

百首うためしてまつりし時

関白左大臣

静かなる老のねぶりの思出に夢ぢうばなる昔かな

坂宇治院御製

昔とて忘れがたきものなれば老の涙ぞ思ひ出でける

前元百首うためしけるつゐでに河

古殿にとゝまりし昔の人をたづねてこゝにも

懷舊の心を

前大納言為家

さてもなほ忘れぬ社なほあれば昔とゝけて思へ

清原定為

思ふとも昔こゝろと思てまもるつゐに月日のつもりぬるかな

と

老山殿の七百首うためしに懷舊恨一と云こと

權中納言公雄

月ゆすきし昔とい(ハ)ふ思ひてのかゝるこゝろを我て老ぬる

老は懷舊といふこゝろを

津守國助女

いふ(ハ)へと思ふ老の涙のそゝぐこゆわるふるこゝ

百首うためしに

二条清親王女

昔とそこふるさとの人なつかしみ老のなみだもとどめん

法印良宋

思ふなきあとのとこよに意ふかき春のうらむもつれん

平宣時朝臣

心ばせあつまのはつぬすしの色ばかりやこゝろうるん

参議雅孝

とこよにぬすむ昔に意ふかき老の涙をとどめかねつる

友原秀成

思出る我世のかたみ昔に思へいとゞ山のゝ月

山階入道左大臣家十首ノ懐旧

前大納言為氏

ふるさとをそこちあまりに行末のうき身に残る春の夢

お大納言為世

みしとをすゝ今も思出ゝ思へいとゞもつれなく

文保百首ノ内ノ懐旧

前権僧正雲雅

めぐりあふ月日は思ひ出るそむ〻成けり

法印

いとゝ〻ふるさと月とてそなつかしく世を思ひ

能登法師

思ひ出でぬふるさとのなつかしの世にかの昔なれるまま

源光行

ゆく末をかぎりなきまでかへりみるむかしなりけり

普光園入道前関白家十首の内月お懐

舊友をしのぶと

源兼氏朝臣

月ゆゑ我身は老ぬけふ昔と思ふ妹と言て

後宇多院より月五十首をたまはりける時

民部卿為藤

思ひ出ぬ月てらすとも老ぬ昔や独の涙なるらん

文保百首たまはりける時

二条法親王覚助

ふるさとの老の涙はふかくとも思ひ出ぬ昔乃袖なれば

舊枕古今集雅与芸とをつらねしこと

前大僧正慈鎮

いふかひなき独とうきぬて涙ようくに沈て成けり

光俊卿

友原基友

いつかとて移ぬる池のあに月はそなれ馴そ思ふ

坂光明寺前関白家

乃ちとしむふるみれ情のけをとゝまれる事なるを

弘安百首をあてまつりける時

大義院澄性

[illegible]

前右兵衛督為教

いそぬ世よ[illegible]のこゝはなふと[illegible]

[illegible]

[illegible]

津守國助

[illegible]

[illegible]

成弘法師母

[illegible]

法眼弘[illegible]妹

[illegible]

[illegible]

[illegible]

恵心院御製

中務宮親王

世をのがれ
ながらへぬれば
ものをのみ
思ひ出でらる
ふるさとの
月

述懷

寄山述懷

前大僧正良覚

我ひとりこの
山にのみ
住むとても
月は
宿りぬ
べしや

述懷

後西園寺入道前太政大臣

思へばこの山路の月をもうれしかりけり
世をのがれ
住侘ぬれば
山の
月

宗尊親王

住侘ぬれば
我をとふ
人
世の
月

好忠

憂いかな世中に我身ひとつ
なかりせば
よみ人しらず

そむくとて
ふる
雨
世の
ものを
思へ

前大納言為家

ひとり
世をのがれ
ぬる
身
ふる
雨
ぬれ
ぬ
人
なし

覚懐法師

散るも月といとしてもいるるんひとつ世のあはれ

弘安百首うたよみてさつりけり時

二条法親王性助

うき世といとしの池のひるるいとんのおちくるる

法印定円

いとすてはそうるん世の月あまつきの世のはれと

前一位

前原長經

月ひとつよるんのおほしもはるるる世乃ちるしの

祝部行氏

一ちらしひさしあの心とうとふるもうれ世とれ

一筋ようれ世そとそもむもるおまつる月何歌うん

前原泰宗

平行氏

あるるおんはしふのもるるる月とふとて世と歌うん

永弓法親王

拾うるんそとなる月と歌さ世と拾うるひなる元

大江廣茂

いとんさうれ世とるひと皆人の拾ぬるひて月ふを

秀曉法師

拾やらぬんそみえん中ちに月ならさ拾ん人よるる

源宗氏

弘安百首歌合

安部の俊宗

何ともわかぬよるの月をながめて月のかげにぬれぬる袖を歌

述懐の心を

右少将藤原良経

さてもぬるるあさきものとやおもひしとなげくなみだの

法華長講

法師蓮心

袖にかかるもぬるるなみだをぬぐふ袖のうらをそなまつるらん

法二位法印

入道親王覚

ぬるるかぬかぬるるかぬるるかぬるる

法印圓伊

のまてを月はらさとを期くらんを持ぬる世なれ

頓阿法師

ふるさとを月も期くして持しあるふんなけまし

前大納言

花の下感法

老の世の物忘れして思ふ事を持しむしと

行念法師

ふる月をとをてをんの時をつかて雅なる神やを建ん

宰相典侍

月を持世のうきことを忘れはとをしあらはとを深の神

世をそむきて乃ち九月くらいに家を出ていら

第義をんのつらつ有ものしい

潤四門院大武

家をあの堅京の第をもしかるい神のをふを給

宣秋門院内侍

拾遺りとをつら歌前大僧正慈鎮

家を出く今の時さ花芸のをしい家の移やをん

返し

後京極摂政前太政大臣

をしてをす神ををふるれをそはとれ乃芸家

病をわつしけるを生ををありて侍れい

[illegible]

[illegible]

[illegible]

おとろへぬるのちよはいかりを養ふるとも
出家入道たち百十首こゝろ養述懷
源兵衛尉
[illegible]
[illegible]
覚優上人
[illegible]
[illegible]
僧正聖弘母
[illegible]
[illegible]
[illegible]

續後拾遺和歌集卷第十八

哀傷部

題しらず　　中務卿宗尊親王

人の世はかりなるものとやさしかの川の岩まくらかな

大納言師氏

あれ初めようさてたちふるまひ消ぬさにうつる世中

源重之

世のことにうさうあいと吹風の友よ我身も消やすらむ

従二位家隆卿

くれ行くこの中に云常よ

正二位知家

人の世はそらむなしきさゝ蜘蛛とゆりてもとゞまらぬ消て

題しらず

藤原澄祐朝臣

とりへ山ゆるとも思ふなもあてふとなのまくに蜘蛛の

さゝのこて行けるこの分まゝりて行ゆきこの

世をあきらめて

藤原高光

あのことにたのの山をたゞ家ふるすむ世よそなれ

逢坂に月ゆりて行の雲おめ出てこゝろ

日ゝのみ行けり

藤原義孝

春面のこゝさに出てこゝ世中ふとふるそこ思ふ

世の中のそうなきことをこゝ

太宰大弐高遠

上総おやの尼にて
やまひのつゝけり
堀川院中宮

為道卿の神祇伯にいまさしかば
為子許の中道けり
白川院中宮

為道卿の神祇伯にいまさしかば
五月雨贈従二位
檀中納言宗母

あやめ草ねさしかねたるあやめ草
贈従二位為子

返し

あやめ草ねさしかねたるあやめ草
てゝさきまさりてはなるゝ身をぞ恨む

萩おりて風吹給へるしなの中納言
ときこゝとゝひつゝ
増基法師

いふせんにはよりて萩のうへに
未の露ふるまゝ
観身岸額離根草

てゝみるゝ中に
和泉式部

露とゝて草葉ゝ
河まつ行の命なり
ゆく人しらず

物露は消のこりてもとゝ
白河院御下野
みちふ山けふ草

右日記を山下家乃消息を以て贈従二位為子朝臣
為爰ゑめ給ける哥共中に月前思友人を
いつくとて　従二位為理

なき跡のこゝろをまてや歎きん面影のこる雲の月
雅世朝臣まりて法性寺なりしをりとき給
ひ歎月をみて詠る　隆信朝臣
ふるさとの月を恨よりこゝろをさきたる
長月の忘つゝ京極院の住いとゝ人〳〵

山中入道前太政大臣
ゆゝしかりしに読歌
ふるさとを思ふ涙を山ちとて雨ふる袖をいとゝしぐるゝ
四の月ひとゝ伯父の時友京極殿
やつゝしけり
前大僧正禅助
ふるさとゝそ春ゝ花下葉よ秋の露乃ゆゝを
友京極殿
返し
花よりそゝとゝその森乃露もゆゝとさけ深草
なき人とゝふゝ伯父の時
安嘉門院大弐
あさゝの消て露乃ゆゝとて昔とゝを涙ぬ

前大僧正守鑒月次りて侍りける

紫雲法師

[illegible]

前中納言為相

[illegible]

[illegible]

院御製

[illegible]

惟高親王

[illegible]

後鳥羽院大納言典侍母月次りてよろ

九条九条母

[illegible]

[illegible]

[illegible]

つひにふく春後親澄りにいひをりける

皇太后宮大夫俊成

雲深み神とつねてなくさはに日数よりはへもわるあかあひとりて行きそ人分面りて行かれて

高陽院木綿四年

物名 玉つさのきあえていひやるこもあかれ

神無月のはつ日のもりれる葉作之信恵

そて行けるふ程へくいひつるし者

周防内侍

いひやらんこの葉あるそなりきる東拾遺の別ハ

あのあるはとれとをきまうてなくかなと

こさして

読人不知

今うんとひくに別れ元あるまいなる世とさけと行そ時

あひとりて行きそ人のつまりとをもひ

てのうつりけり世京そうるかなる

はるれはとこ独てうるはてて中つるけ

信生法師

なきゝのけやいみえん岩屋ある又ある仮乃開いこ

はつまふくやまひとりに行る河ある

友原雅房

[illegible]

贈従二位為子朝臣　前権僧正道性

よみ人しらず

思やらんをしるべにまよひけるさるのつきをのみ

お大納言為世

返し

さるのみちをしるべにして消ぬる家の命あるらんそなた

[illegible]

[illegible]

歌

[illegible]

歌

[illegible]

園光院入道前実白家臣

月ゆゑ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四条宰相ふつかのあさ世中に着そめ侍

法一位殿子月まうりて侍前右大臣宣旨

ふくなくなりぬとさてやつりけり

お大僧正賢円

ひかやらぬ蓮葉よりゆめとさとりて遠の中に極楽

家よ百年ちよまで侍りけ

中務宮宗尊親王

いふそとひさしきあんらつとも蓮もなさいこの世なり

鄭しらす

前大納言為氏

世中はふるふつきそそ彩まもあはれ蓮もなかめつも

西行法師

なきをあとをとふも世中に新りれ蓮を流れ

西行はしをめてよまを世行を百年ちよ

中に

前中納言定家

世中にあるけやとすはをそ思ふとあらとも

たのむつきうそ

續後拾遺和歌集卷第十九

釋教歌

前大僧正慈鎮

法の門はかなきをしるしるべにて
山寺に住して後世をいとはんとて
和泉式部

物とのみ思ひ分るを生死にて
あはれ百年をすぎにけり時秋教

お大僧正道玄

立ぬれば思ひ出よりさきにかの人の何いそぐ

中務宮守親王

さとりをえ海のひろきを知るにつけ
今量義経のこころを

遍子内親王

くりかへすのりの海をせこそ佛の種とりあげつれ

久安百首哥

久安百首哥

源家長卿

法の花はなにをもとめ給ふ一乗経の中に

前大僧正慈鎮

まことにぬれ光はふるもいにしへの法の雨をもとめ給ふ

皇太后宮大夫俊成

是法住法位世間相常住乃至

了然上人

十如是乃ゝとゝみけの中に如是報

法華経授記前左近衛府

信解品

前大僧正実証

菜草喩品

僧都源信

法師品

選子内親王

宗すなわちこれ法性の中に五時の月は光をそへまし

合別功徳品別如来現在と

大義の澄性

不軽品

前大僧正道昭

分別功徳品

雲ゝ雨ゝ雷ゝ風ゝの三ゝ五ゝ月の光り

如来神力品

前大僧正道昭

嵐ゝ雨ゝ雷ゝ

嘱累品

藤原河右大臣

妙音品

三ゝ世の諸仏の法を授けそこなう

観世音品

法師愚實

三ゝ世の諸仏の法を授けそこなう

祝部成仲

前大僧正親源

津守國道

法師道我

法師乙恵

前権僧正定豊

お僧正乙朝

権僧正聖尊

長秋門院女房八重

十寄戒

[illegible]

[illegible]

寂然法師

文保百首[illegible]

二条法親王覚助

[illegible]

[illegible]

法性寺入道前関白太政大臣

[illegible]

道基法師

[illegible]

前大僧正良信

[illegible]

金剛般若経[illegible]

[illegible]

法印守禅

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

千觀法師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

久安百首

上西門院兵衛

[illegible]

唯識論

唯識深秘理中抜萃解

故作此論

前僧正実聡

妙[illegible]

未得真覚廠恒[illegible]中[illegible]

[illegible]

[illegible]

題不知

天台座主覚運法親王

ながらへて今をかぎりの山ぢかな
ぬれわたるかな

源宣上人

我心池水ながらへてうたかたもなし
さらぬるかな

續後拾遺和歌集卷第二十

神祇部

大神宮ふかくまゐりて侍りける百首の歌の中に

皇太后宮大夫俊成

みまくもかしこしとおもふ
ちはやぶる

神風やいせの川ぶねかぞへてもいくよ
ぬるらん

權中納言師時

石清水社の合の榊と

前大納言澄房

神まつるやちよをかけてかはらぬ
山榊葉

春の社のみくしをりけるに百首の中に
夜　為道朝臣

ちるらんと春のうちさしたる桜ゆゑ
賀茂御祖の祭試楽の日舞人の行ち
けるを見侍りて　御製

新宮の御ゆきの行ふ大臣の神の
松尾祭の行事年毎にまゐりて侍り
し間行をそなへて新宮より給はれいひつ
かはしける　前左兵衛督惟方

出雲にて雲のへなる出らんかの
一条院の時の例なりけるを一条院春日社の
参りけるに上東門院参りて世話
参ふ法成寺の道兼摂政のうやいのうえん
うすう殿より参りて○ゆきて
給けるに　上東門院

今ぞとも西の光りや春日の御影にあふ
神祇と　前大納言為家

春日の苔の衣の袖のうへに神乃たりしひてこそ
春日乃みやこ神まる累代のあるかぎりとも

中院祐春

てしあり

[illegible]

お関白左大臣九条

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

入道前左大臣

社頭祝

津守國助

[illegible]

社頭[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

保元二年十一月八十餘ふまつり参に住吉社
にてよみ侍りける　前大納言経房

万代の色とそなたの住吉の松ふく風もかけそ
なれる　摂津守よりて住吉社
奉花永和　摂津守
ふるまめて神祭をこなひ侍りける時松のと
にて物申けるついでによみ侍る　摂津守国基

我身にも神さひまされ住吉の木たかき松の陰ふる
住吉社にまゐてよみ侍りける　道海

家在所にさかりて我国よりいまの住吉社へ
まゐりて　平時香

住吉の岸の姫松いにしへ昔おもふとしるらん
摂津守国道

まゐりなれ神よりつきて住の江のよるかたとこひやん
文保百首の時侍りける時　民部卿為藤

ゆさめにてすの日吉のもりこ浪もあしの葉の
神祇にてよみ侍りける　後鳥羽院御製

あさてまいる日吉の新くのをうつさ雲ぬ
十禅師宮ふきりてとゝ給ける

前大僧正道玄

神ゝ[illegible]五月ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
前大納言為世卿日吉社奉合
よ神祇

[illegible]ふ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
お僧正極守

[illegible]ふ知
入道親王尊円

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
祝部成久

[illegible]ふ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
前僧正極守

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
日吉社奉
[illegible]給ける神祇

法印長舜

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
馬頭院御所御なきゝを世よいひつきれ
て作る法小野殿社よこりてゝ[illegible]

仁俊法師

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
そのちなきゝ[illegible]ふけゝ[illegible]

吉日祐ふとうて[illegible]りけるうち中に

安部[illegible]信言命

おなじ祐ふとうて[illegible]りし奇に

前大納言為世

[illegible]の世とこれを神のうたの[illegible]

神祇[illegible]

祝部[illegible]氏

[illegible]やそちふ[illegible]の[illegible]神のめ[illegible]

津守國基

[illegible]代を祈[illegible]

文保百首[illegible]りけるうち時

權中納言公雄

[illegible]代を祈[illegible]木[illegible]八十氏[illegible]

度會常良

氏[illegible]世[illegible]神[illegible]

百[illegible]時

閑白左大臣

天地の神[illegible]

[illegible]知

御製

[illegible]の神[illegible]時

清輔朝臣

今宵なきますみ月やあめふまんとよやうひめの後朝

日本紀とをりてまあり

賀茂久世

今りかくはまよりこしてる月や秋ぞよりそ焼ぬる

鎮金右大臣

雲つりの松原ぬりふりいく世あるん

玉津嶋りつ